

山田小学校だより (Metamorphose)

文責 校長 谷川晴峰

素晴らしかったです！少年の主張大会！

6月10日（日曜日），平戸文化センターで、「平戸市少年の主張大会」が開催されました。本校からは、6年生の【** **】さんが、『人情弁護士****』という題名で出場しました。意表をつく題名と、文章構成、そして表情豊かな発表が功を奏し、見事に『優秀賞』を獲得しました。人工知能（AI）を搭載した検察官と、33歳になった弁護士（**さん）が法廷で対決するという内容でした。少々長くなりますが、全文を紹介します。

人情弁護士 ****

山田小学校 六年 ** **

私の将来の夢は、**弁護士になることです**。しかし、私が大人になって仕事をするようになる頃には、今の社会とは変わっているようです。どのように変わっていくのでしょうか。それは、AI、人口知能の発達が関係してきます。

現代社会を考えてみましょう。AIがプロの将棋士に勝った、というニュースを見ました。また、案内人がみんなロボット、というホテルもあります。よく行くスーパーには、ペッパー君という人型ロボットが設置され、お買い物に役立つ情報を教えたり、子供たちと会話したりして、楽しくおもてなしをしてくれます。レジに人が立たず、スマホ一つで会計ができる、無人コンビニも存在します。このようなことから、今後もどんどんAIやロボットに仕事が奪われていくこととなります。私は、この事実を知って危機感を感じました。私は将来、なりたい職業につけるのだろうか、と。

そこで、私は自分の夢の実現のために、三つの力を身に付けたいと思います。

一つ目は、ICTを目的に応じて、使いこなす力です。今、学校ではタブレットを使って授業が行われています。タブレットをテレビに拡大して映すことで、図形を動かしたり、動画ですぐに確認できたりして、理解が深まっています。この便利さを生かし、自分でICTを使って勉強したり、考えを発表したりして、ICTを使いこなしながら仕事ができるようになりたいです。

二つ目は、高いコミュニケーション能力です。私は口喧嘩では誰にも負けない自信があります。人と話すのも大好きです。この能力を身に付けるために、学校の話合いの時間では、相手にどう話せば分かりやすく伝わるか、納得させることができるかを考えながら聞いたり話したりしていきたいです。

三つ目は、人情です。AIになくて人にあるもの、それは心です。弁護士は、人のトラブルを解決する仕事です。相手の気持ちをしっかりと聞いて、人情溢れる弁護士になりたいのです。

時は流れて西暦二千四十年、私は三十三歳になり、駆け出しの弁護士として日々を過ごしてい

ます。今回は、「窃盗」の疑いで逮捕された二十歳の青年を弁護することになりました。対する検察官は、最新のA I 技術によって開発された人工知能搭載の人型ロボットです。

検察官：「私達A I は、数百万件以上のデータを保有しています。そのデータにアクセスすることにより、一瞬で求刑することができます。今回の被疑者の“窃盗”に関して、私達A I 検察官が導き出した答えは、懲役三年の実刑判決です。裁判官、これ以上、議論の余地はありません。」

弁護士：「あなたがたA I 検察官が優秀なのは認めます。しかし、あなたがたは、今回の被疑者である、この青年の生い立ちや家族構成、窃盗に至るまでの経過を御存知ですか？」

検察官：「そのような条件では、検索していません。事実と被害金額、その期間が長いという点から導き出した結論です。」

弁護士：「この青年は高校を卒業後、真面目に働いていましたが、A I 機器の発達で、次々と職を奪われ、次第に収入がなくなりました。その上、年老いた病弱の両親の世話もしなくてはならず、迷った挙句、犯行に手を染めたのです。その点に対する配慮は無いのですか？」

検察官：「感情的な配慮など必要ありません。罪を犯したのですから、それ相応の裁きを受けさせるだけです。」

弁護士：「私たち人間は、人間社会を豊かにするために、あなたがたのようなA I ロボットを開発してきました。しかし、人工知能が人を裁くのはおかしいと思います。人間には感情があります。情けがあります。裁判長、この青年への判決に関しては、十分な配慮をお願いします。」

この裁判の判決は、どのようなものになったのでしょうか？会場の皆さんも考えてみてください。

A I に人間が支配される時代が身近に迫っているのかもしれません。私たちは、近未来の社会について、今からしっかりと準備しなければならないと思います。

私は先ほど述べた三つの力、I C T を使いこなす力、高いコミュニケーション能力、人情を身に付け、A I に負けない人情弁護士になります。



笑顔いっぱいのお**さん！

「夢は、叶えてこそ夢」だと思います。様々な困難に打ち勝ち、努力を惜しまず、今回の発表を「原点」として定め、目標である「人情弁護士」として活躍できることを願っています。

